情報通信審議会 情報通信技術分科会

ＩＰネットワーク設備委員会 技術検討作業班（第１２回）議事録抄

１　日　時

平成１９年５月２９日（火）１６時００分 ～ １８時００分

２　場　所

総務省９階　第３特別会議室

３　出席者（敬称略）

⑴　構成員

相田仁（主任）、粟野友文、伊田吉宏、入部真一、江﨑浩、榎本洋一、笠井康伸、加藤義文、木原賢一、木村孝、齋藤保夫、高橋英一郎、谷直樹、中野尚、中道正仁、名部正彦、成宮憲一、松本隆、松本檀、三膳孝通、森川誠一

（以上２１名）

⑵　オブザーバー

中島伊佐美、小林中、平松淳、柳邦宏、加藤正文

⑶　事務局（総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課）

渡辺電気通信技術システム課長、荻原同課課長補佐、中村同課課長補佐、大西同課課長補佐、小林通信規格課専門職　　他

４　議　事

⑴　前回議事録抄（案）の確認について

資料作１２－１に基づき、技術検討作業班（第１１回）の議事録抄(案)について、意見等がある場合には事務局へ連絡をしていただくよう説明があった。

⑵　検討項目の抽出等について

資料作１２－２に基づき次世代ＩＰネットワーク推進フォーラム（以下、「フォーラム」という。）ＩＰ電話ＳＷＧ副主査　中島様より、資料作１２－３に基づきコンテンツ配信ＳＷＧ主査　小林様より、資料作１２－４に基づき固定・移動シームレスＳＷＧ主査　加藤様より、資料作１２－５に基づき端末・網ＳＷＧ主査　入部様より、それぞれのＳＷＧでの検討状況等について説明があった。続けて、参考資料１２－１に基づき、通信規格課より、ＩＴＵ－ＴでのＮＧＮ関連の検討動向について説明があった。また、フォーラム技術基準検討ＷＧリーダー　粟野様よりＷＧでの検討について

説明があった。

【意見交換の概要】

相田：ＩＴＵのＮＧＮの議論において、ＴＡＰとＡＡＰのどちらにするかは基準があるのか。

事務局：参考資料１２－１にもあるとおり、規制・政策に関連する内容の場合、ＴＡＰの手続きをとることになる。
また、ＮＧＮのリリースについては、リリース１の完成目標が２００８年１月に変更された。２００８年１月の時点をもって、リリース１として内容的に良いかという意見もあり、またリリースごとのつながりを重視しなければならないとの意見もあり、リリース１完成以降も修正意見があった場合、完成がさらに遅れるという可能性もある。

江﨑：現在のペースでいくとＩＰｖ４の在庫が２００９年末か２０１０年初に底をつく。アドレスの問題として技術基準においてシビアな問題ではないか。
０ＡＢ～Ｊ番号のＩＰ電話についての議論の際は、対象が電話であったので議論が進めやすかったと思うが、今検討しているような電話以外のサービスについての議論においては予めサービスを規定して議論を進めていくのは難しいのではないか。サービス自体の定義が難しいのではないか。むしろ、サービスに依存しない形で議論を進めていくという方針が他の研究会でも提言されている。
コンテンツ配信に関する議論については、トランスポートを扱うのはこの場であるとすると、コンテンツを扱うのは別の場ではないか。また、コンテンツ配信ＳＷＧでの参照モデルにおいて他のプロバイダーが入っていないのは問題点である。
さらに、検討においてはＯＥＣＤに加盟している関係で、グローバルな仕様を念頭において検討を進めていく必要がある。

粟野：ＩＴＵにおいてもコンテンツ配信の議論はされており、多数の参加者が議論をしている。このままでは日本だけがおいて行かれる状態である。
ＩＰアドレスの件は、状況を注目しつつ理解しながら検討進めていきたい。

江﨑：ＩＳＯＣにおいても何とかなるだろうという見込みだったが、（事実として）数字が示されてきて、サービスの継続性ということからシビアな問題である。ＩＰｖ４においては新しくアドレスがもらえないという前提で議論を進めていく必要がある。

粟野：当初ＩＴＵにおいてＮＧＮの議論はＩＰｖ６ベースで行われていたが、ＩＰｖ４でも利用したいとの運用上の問題があり、ＮＴＴにおいても現在ＩＰｖ４／ｖ６デュアルとなっている。
ＩＴＵでおこなっているＮＧＮの議論というのは、キャリアが責任を持って提供するネットワークの議論である。一方、インターネットというのは誰でも利用できる、

分界点もないネットワークであり、議論をする際には、２つを分けて検討していかなければならない。

江﨑：この場で議論する範囲というのは、インターネットというプロバイダー間でのレイヤー３でのトランジット（交換）を前提としたものを対象とするのか、あるいはＡＴＭのように単なるリンクを対象とするのか。

粟野：事業法における技術基準がかかるのは電気通信回線設備を持っているキャリアのみであり、インターネットのプロバイダーにはかかるものではない。

事務局：電気通信回線設備については、事業用電気通信設備規則の５原則に基づき、技術基準が規定されている。この場で議論しようとしている議題は、利用者に対して確実に安定的に役務が提供されるように今後どのように技術基準等をしていくか、フォーラムと連携して抽出していただいた課題等の検討を進めていきたい。

相田：今後新しいサービスを対象としていく中で、必要以上に決め過ぎてしまうと動きが取れなくなる。
相互接続性の確保という観点で、いわゆる技術条件として決めるのか、別の形でのアプローチがあるのか、検討していただきたい。

加藤（正）：サービス依存しない技術基準というのはどういったものがあるのか。提供者側の一方的な論理にならないのか。インターネットアクセスのベストエフォートだけを利用したいのに、０ＡＢ～Ｊ番号のＩＰ電話のＱｏＳが求められるような、厳しい技術基準が求められることにはならないか。

江﨑：利用者にサービスとして提供するものは、レイヤーにおけるトランスペアレント性が高いことが求められる。

加藤（正）：音声サービスにおいて規定するというよりは、クラスＡではいくつという風に規定する方がいいということだと理解した。

加藤（義）：資料作１２－３のモデルの図において、Ｉ－ｓやＩ－ｔと書かれているがこれらが意味するものは何か。

粟野：可能な限りシンプル化した基本検討モデルとして定めているもので、ＡＮＩに捕らわれることなく議論を進めていく前提として暫定的にＩ－ｓやＩ－ｔと書いているものである。

相田：フォーラムと連携して検討作業を進めているところではあるが、この作業班のメンバーの勉強ということで、機会を設けてはいかがか。

江﨑：この議論を進めていく上で、ＷＴＯ等の関係もありグローバルな仕様というのを考えていかなければならない。

事務局：この場での議論は、グローバルな仕様というのにとらわれずに議論していただいて構わない。制度化する時点でＷＴＯ等の問題を考えることになる。制度化するに

あたり、グローバルなもの以外の規定については、ＷＴＯにおける通報を行い、各国の了解を得ることになる。
勉強会については開催形態等も含めて検討させていただく。

成宮：サービスごとに議論するのではなく、共通的なものについて議論する方がいいのか。フォーラムのＳＷＧとしてはサービスごとに検討を進めているが、どのようなスタンスで議論を進めていくのがいいのか、前提をあわせる必要があるのではないか。

加藤（正）：フォーラムの前体制の次世代ＩＰネットワークＳＷＧの議論において、サービスが決まらないと、議論が進まないということであった。技術基準の再体系化ということは必要なのかもしれないが、サービスごとに議論をしないと議論が進まない。

江﨑：サービスの定義をどうするか、ベアラなのかアプリケーションなのか。

相田：強制規格にするのは共通的なものとなると思うが、サービスにおける規定を何も決めないと何も始められないので、ある意味リファレンス的なものとして決める必要があるのではないか。

江﨑：最近のＩＰ電話の故障の原因はネットワーク側のサーバと設定の問題であって、エンドにおける問題ではなかったと理解している。ＩＰネットワークにおけるアーキテクチャがまだ成熟していない部分があるのではないだろうか。
エンド・トゥ・エンドで使用するプロトコルについて、プラットフォームに依存して決めるのか、あるいはエンド間で決めるのか、きちんと区別する必要がある。

相田：利用者の立場としてはエンドで利用するプロトコルについて、共通化された方が良いと考える。

三膳：フォーラム内のＳＷＧ間での連携を進めていっていただきたい。また、ホームネットワークＷＧとの連携はしているのか。

粟野：ご指摘のとおり技術基準検討ＷＧ以下のＳＷＧにおいてはお互いに連携して検討を進めていく。フォーラム内においても意見交換していく。

事務局：ホームネットワークＷＧとの連携については、お互いに情報交換していくということである。

⑶　その他

参考資料１２－２に基づき、ＩＰネットワーク設備委員会報告概要として「情報通信ネットワークの安全・信頼性対策に関する事項」について、事務局より説明があった。

また、今後のスケジュールについて事務局より説明があり、次回は６月下旬で調整する旨、連絡があった。

＜配付資料＞

【資料番号】	【配付資料】
資料作 12-1	IP ネットワーク設備委員会 技術検討作業班（第 11 回）議事録抄（案）
資料作 12-2	次世代 IP ネットワーク推進フォーラム　IP 電話 SWG の検討状況
資料作 12-3	コンテンツ配信 SWG の検討状況
資料作 12-4	固定・移動シームレスサービスに関する検討状況
資料作 12-5	次世代 IP ネットワーク推進フォーラム 端末・網 SWG での課題検討状況の報告
参考資料 12-1	ITU-T での NGN 関連の検討動向
参考資料 12-2	IP ネットワーク設備委員会報告概要